

演題名	管内酪農家におけるサルモネラ防除対策		
発表者 氏名	河合浩二	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>1998年2月に、搾乳牛50頭を飼養する酪農家の子牛下痢便から <i>Salmonella</i> Typhimurium(以下、ST)を分離。この農家では1997年11月～1998年2月に、生後2週以内の子牛8頭が下痢を呈し死亡。ST症を疑い、畜舎の汚染状況を調査。成牛8頭、子牛2頭、塵埃、残飼、牛床、ネズミ糞便からSTを分離。畜舎の広範な汚染が判明。感染源は不明。1998年3月から保菌牛に有効薬剤と生菌剤投与、牛床及び壁に石灰乳散布、土壌に消石灰鋤込、飼槽補修、ネズミ駆除、下痢発症子牛の治療を実施。対策開始1か月後の検査で保菌牛を含む全頭が陰性。しかし、塵埃、残飼からはSTを分離。上記対策を継続。1998年11月の検査で環境材料も陰性を確認。馬パラチフス診断菌液を用いたマイクロ凝集反応によるGM価は30倍(1998年2月)から12倍(1998年11月)に低下。対策実施後1998年11月まで子牛の死産、成牛の発症、流死産はない。</p>			